

自由回答欄まとめ(抜粋)

※ アンケートは無記名で行なった。

Q2(4)	授業への出席と弁護士業務との調整に関して、お考えをお聞かせください(調整困難な程度、理由、改善のためのご提案など何でも)。	
日本法 科目モ ニター		自分だけで担当している事件であれば調整が比較的容易だが、他の弁護士と共同受任している場合や、裁判所の開廷日が限られている場合(例えば地方の裁判所)については、どうしても授業のある日に打合せや期日を入れなければならないことがあり、やむなく授業を欠席したことが何度あった。 休講予定日と代講日を1か月以上、遅くとも2週間前には把握しておきたい。 職業柄、緊急対応が必要な場合は生じ得るので、突然出席できなくなってしまうことが生じる可能性は避けがたい。不幸にして授業における発表担当日などに出席できなくなった場合の備えをしておいた方が良いと思われる。 授業中に電話に出ることが出来ないのが困っているところである(1時間半程度電源を切っていると迅速に対応できない件があるので)。出来れば実務家については電話に出ること(もちろん教室外で話すことになる)を一般的に認めていただきたい。
		ゴールデンウィーク付近に、休みが続いたため、急に別の曜日に振替になったときは、学生ではないため、それに対応するのは大変難しいと感じた。また、業務あつての生活という面があるため、どうしても優先すべき業務というのは必然的に弁護士には出てくると思う。 半年先くらいまでは、ある程度、予定が入ってしまっており、予定の変更も困難だった。半年以上前におおまかなスケジュールが決まっていると調整できるが、実際、それをするのは学校側としては困難だろうと思う。
Q3(4)	授業内容に関して、何でもお考えをお聞かせください。	
日本法 科目モ ニター		難易度も適切で、とても勉強になる内容であり、今後も出席を継続したいと思った。 授業内容自体は、理論的な基礎から体系立ててあり、裁判例も豊富に扱っているので、満足している。重要ではあるが、普段はなかなか勉強の時間が取れない部分である。 授業内容については、大変興味深い内容であり、不満は全くありません。 モニターという事で、金銭的には無償にて受講させて頂いておりますが、費用を負担してでも受講する価値は十分あると思います。 特に判例をベースに検討を進めている授業形式は、実務的な観点からも気に入っております。 実務に出てから、体系的に学び直す機会はないので、基本書や重要判例を読む機会があるのは、日常の業務知識の向上にもつながって非常に有益です。 最新重要判例演習(労働法)については、教師の方及び生徒さんのレベルが高く、大変勉強になる。 非常に分かりやすく、体系的に学べるのは刺激的。よい経験をさせていただいています。
		とても興味深いですが、即戦力のスキルとはならない。体系的に時間をかけて勉強できているので、業務に追われている中ではとても貴重な経験である。 実務を離れた法的思考力を鍛える授業は、とても刺激的で楽しかった。学生さんとの経験の差も問われないことから、忌憚ない意見交換ができ、交流もできて、とても楽しかった。 英語の能力については特に受講の条件はなかったが、英語で行われるので、やはりある程度は英語の能力がないと、授業を理解するのは難しいと感じた。内容自体は、アメリカ法の入門として、基本的な部分のみを一通り扱っており、興味深く聞くことができています。少人数のクラスであったこともあり、学生から頻繁に質問も出ており、雰囲気はとても良かった。
Q4	これまでモニターとして授業に参加してお気づきの点や感想など、自由にお考えをお聞かせください(弁護士が法科大学院の授業に参加するのは有益か、など)。	
日本法 科目モ ニター		弁護士が法科大学院の授業に参加するのは非常に有益である。特に、弁護士の場合、一旦実務につくと、多忙の余り理論面を深化させることができなくなる可能性が高いことから、実務家になって数年経った弁護士こそ、理論面のブラッシュアップのためにこのような授業を受けることに意味があるのではないかと感じた。 実務家が参加する場合には仕事のスケジュール調整(いかに時間を作り出すか)が非常に重要になるので、授業スケジュール(休講やテスト日)、参考資料の公表は十分な時間的余裕を持って開示していただきたい。

	旧試験合格者としては、法科大学院の授業内容にそれほど期待していなかったが、実際の講義内容が素晴らしく、受講生のレベルも高いので、見直したのが第一印象。弁護士が、司法試験で勉強しなかった科目について、法科大学院の授業に参加するのは無益ではないと思う。 意欲のある弁護士側にとって授業参加は大変有益だと思います。例えば、判例の検討の仕方や理論構成の立て方などについては、実務で詰めて取り扱うことは必ずしも多くなく、努力を怠るとあっという間にスキルが低下してしまいますが、法科大学院の授業で最先端の法律学の議論に触れることにより、理論構成力などのスキルを維持・向上させることができると思います。 弁護士が法科大学院に出席することは有益であることは間違いないと思う。やはり思考の出発点として体系的な理解があるかないかで調べる労力も変わってくる。しかし、実務家が出席する可能性がある授業については、なるべく朝早くか夕方以降にしていただけると助かる。 最初は、学生の方に受け入れていただけなのか非常に不安でしたが、すぐに話し掛けてくださり、質問とかもしてくださる方もいらして、慶應ロースクール生の意識の高さがうかがえ、感心しています。自分の初心を思い出す良い機会ともなっています。また、発言や発表についても、実務家が参加することで委縮してしまうのではないかと思いましたが、闊達な議論を交わすことが出来て本当に充実した授業となっていると思います。教授の先生方も熱心で、分かりやすく、非常に勉強になっています。 日々の実務に追われ、体系的に知識を学ぶ時間がとれない凡人弁護士(私)にとっては、今回のモニター参加は福音です。 基礎を体系的に学ぶのは、有益的であると思います。 法律英語基礎科目モニター 実務にでている弁護士を交えているのだから、実務と関連のあるテーマを扱う方が、弁護士にも、学生にも、有益な議論になると考える。 このような機会を設けていただいたのは、自分の業務にとって大変有益です。また学生とも触れ合えて大変楽しく感じているので、心よりお礼申し上げます。業務との関係で、予習不足であったり、どうしても調整がつかず、欠席することもあります。なんとか一生懸命ついて行きたいと思っています。 語学力の向上に役立つと思うし、有益ではあると思う。ただ、時間を作ってなんとか出席できる状況であり、大量の課題を出されるとなかなか対応できない。また、全回出席は困難であり、授業に連続性を持たせられると、欠席して以降の授業に参加できなくなる。 課題が多く準備に時間がかかるが、面白い。学生が優秀かつ積極的であるため、授業に活気があって、双方向で素晴らしい。外国人も多く、多様な意見があり密度が高い。ぜひ弁護士会の研修もただ聞いているだけのものではなく、少人数のディスカッション形式も取り入れるとよい。 科大学院に戻って勉強するオプションがあることを知り、週1ペースで何かを集中して学ぶということを久しぶりに行い、とても刺激を受けた。こういった授業を実務家にも解放することはとても有益だと思った。 いつもは実務の合間を縫ってバタバタと知識を身に着けていますが、そんな日常とは異なり、集中して最新のトピックを含めた知識を身につける機会が得られるというのは非常に貴重な機会だと思います。また、ロースクール生と交流して昨今のロースクール事情を肌で感じる点においても有益だと思います。 弁護士にとっては、自分の興味のある分野について学ぶことができ、知的好奇心を満たすという意味ではもちろん有益であると思う。また、単純に、授業を受けるのは非常に楽しかった。しかし、実際の業務において授業で学んだことを活かすという意味で、授業がどれだけ有益かについては、現段階ではそれほど感じられない。 大学で学生や教授と触れ合うことで、刺激を受け、業務へのモチベーションが高まるという効果もあるように感じた。
--	--